



ついに選挙がやってくる。法制化実現を目前に控え、この選挙の意味はとても重い。全国では、全候補者に協同労働の法制化を伝える取組みを展開中だ。そんな中で、埼玉県内の全地方議会が、法制化の早期制定を求める意見書を採択するという偉業を成し遂げた。

さらに、コミュニティ事業支援条例づくりへと進んでいる地方議会もある。秋の臨時国会に向け、現在力を注いでいるのは、法制化の情勢と検討されている法案内容を、一人でも多くの人々に伝えるための報告・検討フォーラムの開催だ。埼玉、千葉、栃木で先行して開かれ、北海道、東北、東京などで日程が埋まり始めている。法制化運動は、この間全国を駆け回る中でつかんできた「法制化後の可能性」を、本当に実現できる法律の内容に仕上げる段階である。

法制化時代の中心的なテーマが、食・農・環境と中山間地などの集落・地域の再生を結んだ仕事おこしだ。連合会総会で行った「食・農・環境を結ぶ仕事おこしチャレンジコンテスト」に参加した全国11カ所のその後を、11月まで追跡して研究する。その中で、このテーマの可能性と課題を深め、全国一斉の取り組みにしていきたい。この研究には、協同総研が中心になり、新しいこの分野の研究・実践者のネットワークかも始まっている。また、田舎で働き隊事業でつながった地域や人々とも、このテーマを協同労働で追求するネットワークが広が

りそうだ。

法制化の風は、各地の自治体との関係にも大きく影響を及ぼしている。総会以降、各地で新しい公共の仕事が広がり、可能性も見栄えている。緊急雇用対策の予算を活用するものも増えてきた。極めつけは職業訓練である。すでに、今年度の職業訓練は大幅に増額され、この事業委託を各地で受け、職業訓練を実施している。これに加えて、補正予算に盛り込まれた、「基金訓練」の概要が公表された。その中には、協同労働の仕事おこしを連想させるような「社会的事業者コース」が示されている。雇用保険の受給資格を持たない人々向けの基金訓練だが、各都道府県で認定を受けるべく、益明けには緊急の職業訓練の対策会議を行う。あらためて、就労に困難を抱える人々が、職業訓練の中でどのように変わり、何を餌、そしてどんな仕事についていくのか、その全過程にかかわる大きな取組みである。同時に、法制化の背景や法制化によって生まれる現実を最も色濃く映し出す、当面の取り組みになるだろう。

この職業訓練と、食・農・環境を結んだ仕事おこし、そして福祉や教育などを含めて、地域丸ごとの再生・活性化を業とする仕事・組織・働き方が、この中から発想され生まれ出していく事を考えると、わくわくしてくる。そして、これに緊急雇用などの瀬策略的位置機を持った公的資金の活用が叶えば、いよいよ21世紀の新しい公的就労

事業・システムが姿を現すことになるだろ。

9月5～6両日は、労協連30周年の記念企画。5日の記念フォーラムには、内橋克人さんが記念講演いただくことが決まっ

た。協同総研会員各位も、ぜひ翌日の記念レセプションも含め、参加いただくことを切に願う。

■ 研究所だより

榎本 木綿／渡辺 亮子

プルサーマルを止めるための子ども署名

2009年6月30日

愛媛県議会 議長 帽子敏信様

請願 伊方原発のプルサーマルは、やめてください。

原発で電気を作るには、ウランをもやさなければなりません。

でも、ウランをもやすと言うことは、広島に落ちた原爆と同じウランをもやすことです。

そして、ウランをもやすとできるプルトニウムというものは、ウランの何万倍もの放射能を出すもので、地球上で一番毒性の強い物質です。

これから伊方原発でプルサーマルを始めるということは、はじめから

プルトニウムとウランをいっしょにもやすことでとても危険です。

安全と分らないものを使って、ぼくらの未来をなくさないでください。

ぼくら子どもや、生き物が安心してらせるような未来を考えてください。

(原文のママ)

これは愛媛県久万高原町に住む小学5年生の男の子によって書かれた「プルサーマルを止めるための子ども署名」の請願文書です。彼は伊方原発へのMOX(ウラン・プルトニウム混合酸化物)燃料の取り付け工場の認可の話を目にし、母親に「それはなに？」と尋ねたところ、小5の子に原発やその周辺の問題をどう伝えるか考えあぐねた彼女はつい、「うーん…。あんまりこどもには言いたくないんやけど、イヤなものもきたんよ」と省略し、答えたそうです。

私たちもかつて多かれ少なかれそうであったように、子どもから大人へ成長するそれこそほんの一瞬の間、過敏なまでに冴えわたった感性や真実を射抜こうとする正義感が子どもを目覚めさせ、一気に視界を広げるそんな瞬間があるものです。彼はすぐさま図書館から原子力やプルサーマルに関する本を借りて読みあさり、やはりこれは「危険なモノだ！怖がっているだけじゃなく何かできることは…」と考えました。もともと彼のご両親は私たちが今年3月